



日鉄鉱業株式会社

2021年度～2023年度

第2次中期経営計画 概要

証券コード：1515

2021年5月10日

第1次中計（2018～2020年度）の振り返り	3
第2次中計（2021～2023年度）の基本方針	6
事業活動とSDGsへの取り組みの両立	7
財務指標と中長期経営目標	8
資金計画と設備投資計画	9
セグメント別計画（売上高・営業利益）	10
株主還元方針	19



長期ビジョン

資源の開発・安定供給を通じて社会に貢献するとともに、「総合資源会社」としてグループの総合力を発揮し、持続的成長を実現する。

持続的成長へ

総合
資源会社

成長投資

骨太な財務体質

人材の育成

顧客の信頼

株主の信頼

社会との共生

中期経営計画方針

将来の大型投資案件を見据え、強靱な経営基盤を構築する。

大型投資案件

- 鳥形山鉱業所（石灰石）
第3立坑建設工事
- 八戸鉱山（石灰石）
新規鉱区開発
- チリ共和国アルケロス銅鉱山開発

企業体質強化のための 取り組み

- 鉱物資源の価値向上
- 生産性の向上
- コスト削減

数値目標

2020年度営業利益

100億円以上

株主還元方針

自己資本の充実と株主還元両面の
バランスを図りながら

長期安定的な配当を実施

中計最終年度までに 年間1株当たり100円以上



第1次中計（2018～2020年度）の振り返り：実績①

4

大型投資案件への取り組みを着実に実施

- 鳥形山鉱業所（石灰石）第3立坑は2023年度より本格運用開始予定
- 八戸鉱山（石灰石）の新鉱区開発は2021年度下半期より一部出鉱開始予定
- チリ共和国アルケロス銅鉱山開発は環境許認可手続等新型コロナウイルス感染症の影響により遅れ、早期開発着手を目指す

企業体質強化への取り組み

- 鉱物資源の価値向上は2018～19年度にかけ順調に推進したものの、2020年度の経済情勢の悪化により未達

数値目標 2020年度営業利益100億円以上は未達

- 目標利益に対し▲13億円未達
 - 鉄鋼メーカーの構造改革に加え新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済低迷による高炉一時休止などの影響で生産品石灰石の販売量が大きく減少
- ▼
- 鉄鋼・骨材・セメント向けなど石灰石全量で計画に対し2割弱の販売減
 - 2021年1月の鳥形山鉱業所長距離ベルトコンベア火災事故による減販
- ▼
- 資源事業（鉱石部門）の業績が大幅に悪化

2020年度 連結業績

（単位：億円）

	実績	計画	差異
売上高	1,191	1,155	36
営業利益	87	100	▲13

内訳 資源事業（鉱石部門）

	実績	計画	差異
売上高	501	573	▲72
営業利益	56	77	▲22



第1次中計（2018～2020年度）の振り返り：実績②

5

株主還元方針

中計最終年度までに年間1株あたり
100円以上配当は達成

	中間	期末	年間
2018年度実績※	45円	65円	110円
2019年度実績	45円	45円	90円
2020年度見込	45円	55円	100円

※記念配当20円を含む

セグメント別成績

（単位：億円）

売上高

セグメント	2018年度		2019年度		2020年度	
	実績	計画	実績	計画	実績	計画
資源事業（鉱石部門）	577	573	554	562	501	573
資源事業（金属部門）	496	470	458	461	538	450
機械・環境事業	127	114	135	116	121	121
不動産事業	28	27	29	28	28	28
再生可能エネルギー事業	19	19	19	19	18	18
セグメント間売上高等	▲13	▲33	▲19	▲33	▲15	▲34
計	1,233	1,170	1,175	1,152	1,191	1,155

営業利益

資源事業（鉱石部門）	75	75	68	73	56	77
資源事業（金属部門）	▲5	10	6	11	18	15
機械・環境事業	11	8	14	9	10	10
不動産事業	15	13	16	15	16	15
再生可能エネルギー事業	4	3	4	3	4	4
セグメント外費用調整額	▲25	▲31	▲32	▲32	▲17	▲21
計	74	78	75	79	87	100

備考

石灰石減販
銅価上昇、円安

前提条件差

為替

計画 105円/米ドル
実績 106円/米ドル

銅価

計画 290¢/lb
実績 312¢/lb



長期ビジョン

資源の開発・安定供給を通じて社会に貢献するとともに、「**総合資源会社**」としてグループの総合力を発揮し、持続的成長を実現する。

基本方針

**大型投資を着実に実行し、持続的成長へ向けた資源の獲得を目指す
国内外の需要動向に対応した経営資源の配分を行う**

本中計期間は、将来の成長を見据えた大型投資の本格的実行期間となります。鳥形山鉱業所（石灰石）第3立坑は23年度からの本格運用を目指し建設中であり、開発中の八戸鉱山新鉱区及び開発準備段階であるアルケロス銅鉱山についても開発を推進し、次期中計期間での本格操業を目指す計画です。

このような積極投資に耐えうる収益の確保と財務の健全性を維持しながら、国内外の需要動向、特に石灰石の主要納品先である鉄鋼メーカーの構造改革などに臨機応変に対応していくことが重要課題と認識しております。

このため、全ての事業において、成長分野の見極めや需要の開拓を推進するとともに、SDGsへの取り組みと事業活動の両立を図ります。



事業活動とSDGsへの取り組みの両立

7

当社グループの持続的成長へ向けた事業活動とSDGsへの取り組みの両立を図る



- 総資本の効率的な運用による営業利益向上のため、ROA（総資本営業利益率）の向上を図る
- 安定した自己資本比率を維持する

ROA（営業利益）

売上高営業利益率 × 総資本回転率

品質向上やコスト管理による収益性の向上

借入金や政策保有株式の圧縮等による資本効率性の向上

安定した自己資本比率

- ・ 鉱山業は長期にわたるライフサイクル
- ・ 持続的成長へ向けた投資への備え

本格的投資期間のため
一時的に低下

投資回収及び
次期投資準備期間

	2019年度 実績	2020年度 実績	2023年度 目標
売上高営業利益率	6.4%	7.3%	6%以上
総資本回転率	0.68	0.63	0.7以上
ROA（営業利益）	4.4%	4.6%	4%以上
自己資本比率	57.5%	58.9%	57.5%以上



中長期目標
8%以上
0.9以上
7%以上
60%以上



資金計画と設備投資計画

9

(単位：億円)

資金計画

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 計画	2022年度 計画	2023年度 計画
EBITDA※	129	140	152	148	154
有利子負債残高	206	215	215	253	304

※ EBITDA：営業利益+減価償却費

設備投資計画

設備投資	88	75	121	132	173
内訳：成長投資※	(43)	(36)	(70)	(87)	(133)
減価償却費	53	53	58	58	81
内訳：第3立坑償却費	-	-	-	(2)	(23)

※ 成長投資：鳥形山第3立坑（石灰石）、八戸鉱山新鉱区（石灰石）、アルケロス銅鉱山開発

セグメント別 投資内訳

資源事業：鉱石部門	71	60	111	97	35
資源事業：金属部門	16	13	6	29	131
機械・環境事業	2	2	1	2	1
不動産事業	1	0	0	1	0
再生可能エネルギー事業	0	0	3	3	7
共通・セグメント間消去	▲ 2	▲ 1	1	0	▲ 1
計	88	75	121	132	173



セグメント別計画（売上高・営業利益）

10

（単位：億円）

売上高

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 計画	2022年度 計画	2023年度 計画
資源事業：鉱石部門	554	501	511	498	494
資源事業：金属部門	458	538	615	599	584
機械・環境事業	135	121	125	127	128
不動産事業	29	28	28	27	27
再生可能エネルギー事業	19	18	17	17	17
調整額	▲19	▲15	▲12	▲12	▲12
計	1,175	1,191	1,284	1,256	1,238

営業利益

資源事業：鉱石部門	68	56	66	63	40
資源事業：金属部門	6	18	26	21	25
機械・環境事業	14	10	10	10	11
不動産事業	16	16	15	14	16
再生可能エネルギー事業	4	4	4	4	4
調整額	▲32	▲17	▲26	▲23	▲23
計	75	87	94	90	73

計画の前提条件

為替…105円/米ドル
銅価…350 ¢ /lb



国内最大規模の石灰石鉱山である鳥形山鉱業所をはじめ、全国に石灰石鉱山を有する石灰石生産量は国内トップクラスで2021年度は生産量2,400万トン进行計画

長期ビジョン

石灰石をはじめとした鉱物資源の新規開発
安定した生産・供給体制を確立

長期目標

国内需要減少を見据えた
海外市場へのグローバル展開

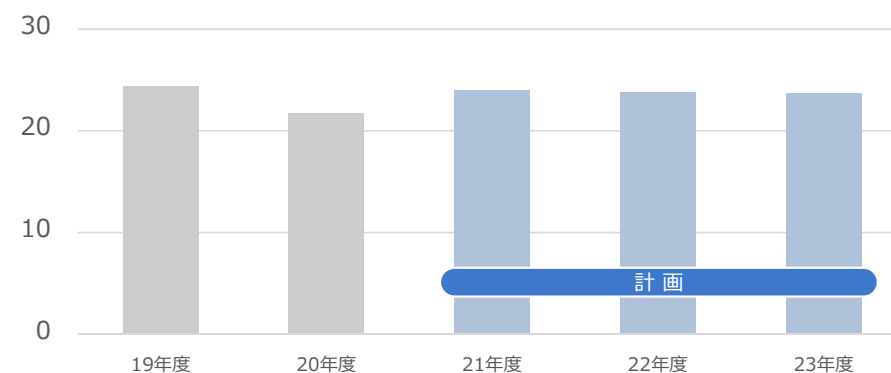
中計期間の具体的取り組み

- 安定供給体制の再構築
- アジア・オセアニア圏への輸出拡大
- AI・IT技術導入による生産合理性、経済性の向上
- 国内外における石灰石等の鉱物資源開発の推進
- 鉱物資源の価値向上



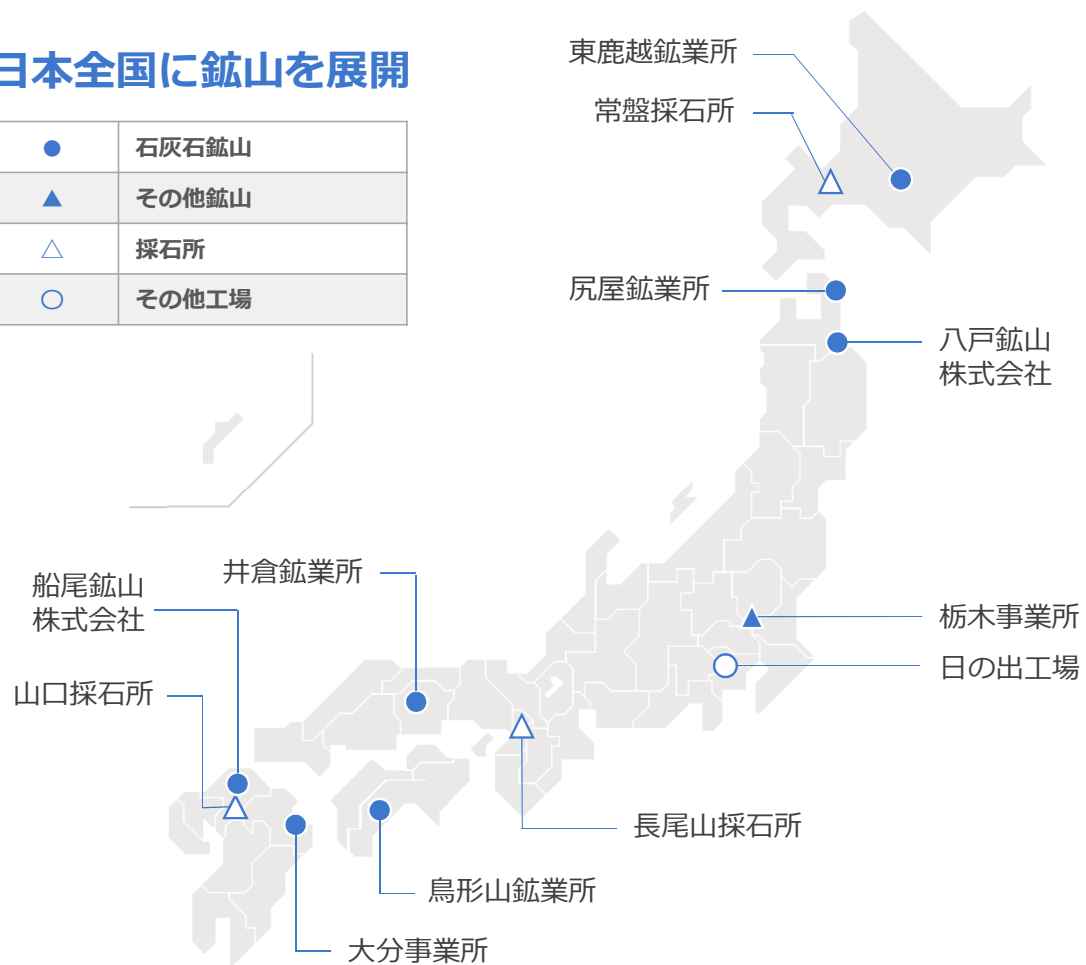
生産品石灰石販売量

(単位：百万トン)



日本全国に鉾山を展開

●	石灰石鉾山
▲	その他鉾山
△	採石所
○	その他工場



資源開発への取り組み



南米チリ共和国における銅鉱山の開発・操業 日比共同製錬株式会社での委託生産による電気銅製錬事業の展開

長期ビジョン

新規鉱源を開発
製錬業と鉱山業の両輪を効率的に回し
シナジーを創出

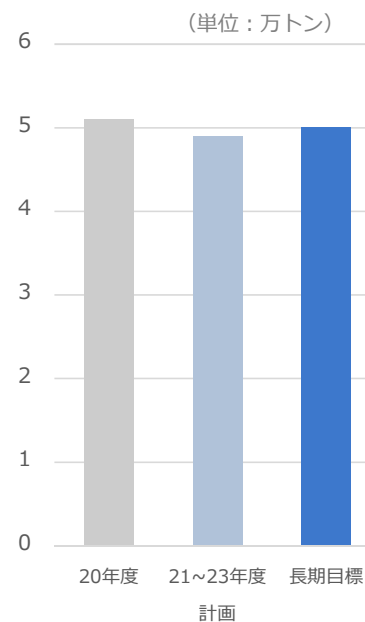
長期目標

チリ共和国で銅量換算年間5万トン以上の
銅精鉱生産
製錬事業の安定した黒字化を実現

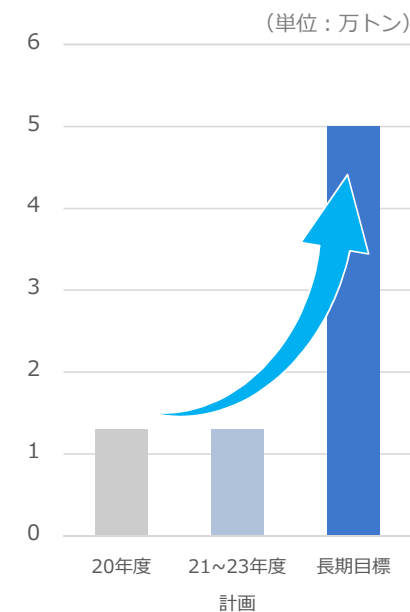
中計期間の具体的取り組み

- ・チリ共和国アタカマ銅鉱山の鉱量増大
- ・チリ共和国アルケロス銅鉱山の開発促進
- ・アルケロス銅鉱山に続く銅鉱山開発調査
- ・製錬コスト低減を最優先課題とした業績改善

委託生産量（銅量）



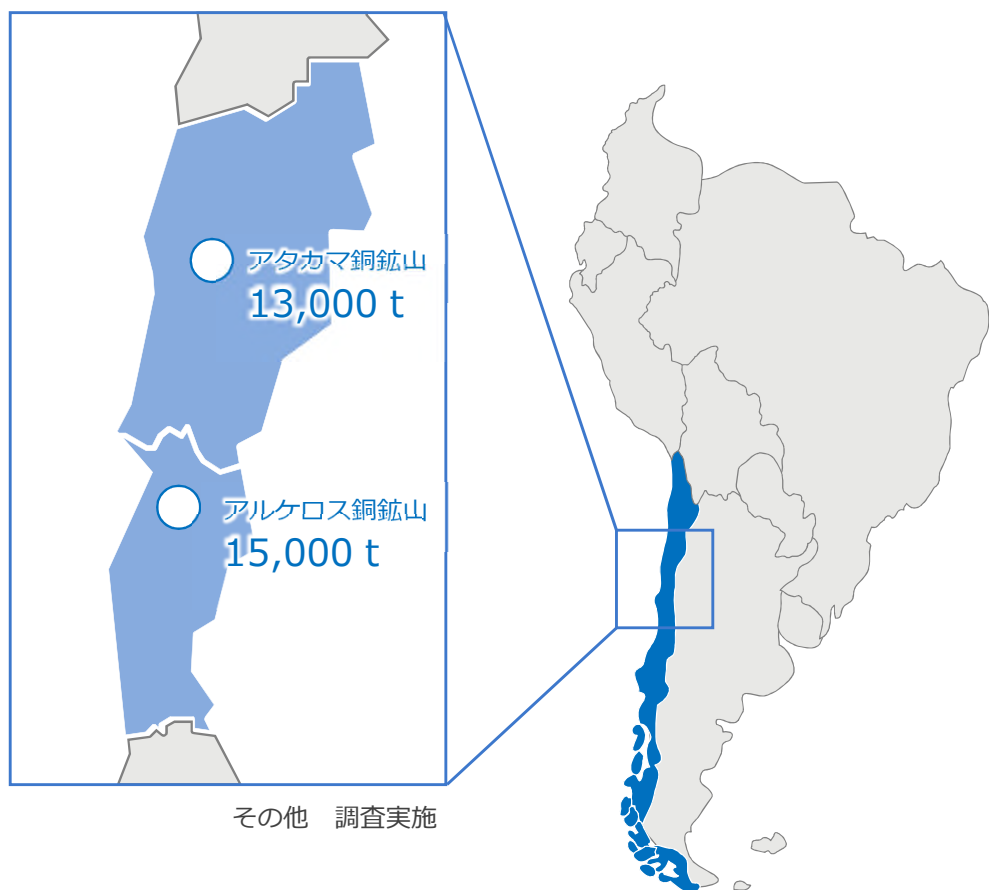
銅精鉱生産量（銅量）



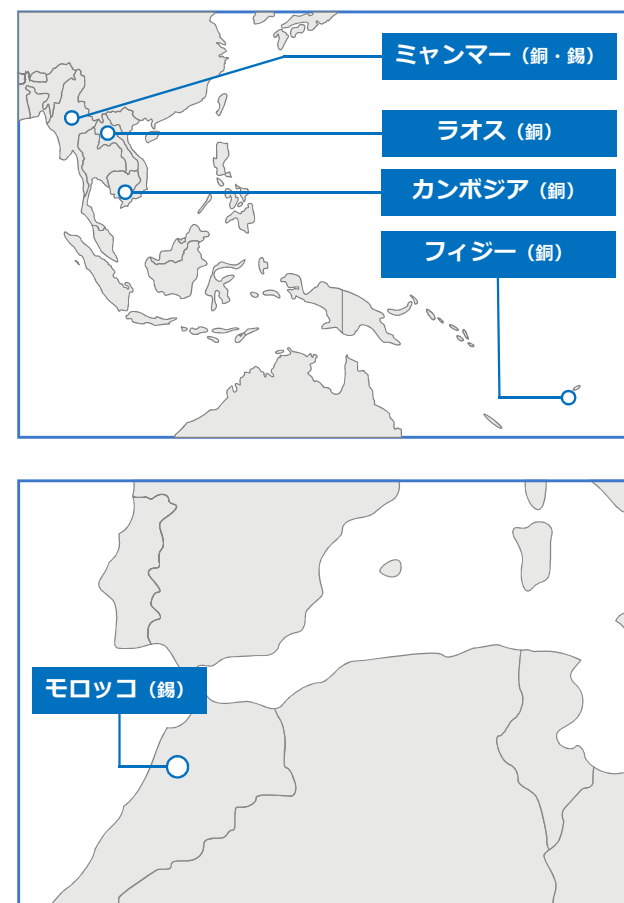
鉱山・製錬の取扱数量をバランスさせることで、
外部要因に左右されにくい収益構造の確立を目指す



チリ共和国での取り組み



資源開発（チリ共和国以外）への取り組み



環境 当社が独自開発した鉄系無機高分子凝集剤「ポリテツ®」を中心に水処理薬剤を販売

機械 地球にやさしい環境対策商品を中心に、ユーザーのニーズに対応した商品の販売

長期ビジョン

社会のニーズに応じた良質な商品を提供
事業フィールドをアジア圏へ拡大

長期目標

セグメント利益 **30億円以上** の達成



中計期間の具体的取り組み

環境

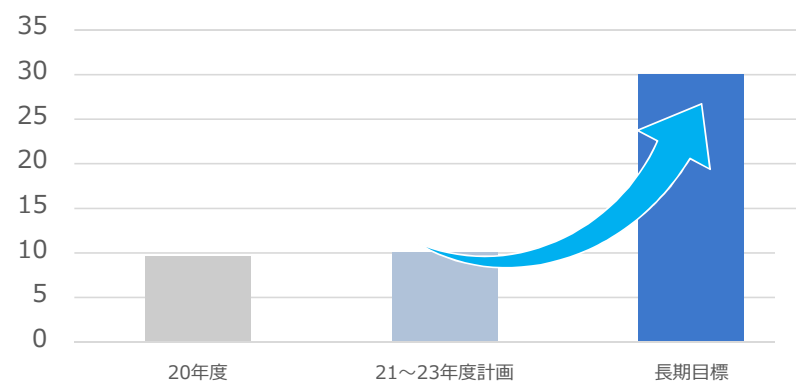
- 次世代型水処理剤の開発による新規需要の開拓
- 台湾、東南アジア圏等に水処理剤製造工場を建設し海外市場を開拓

機械

- 集じん機のアジアを中心とした海外市場の開拓
- 集じん機フィルタの製造自動化等の改善による価格競争力強化
- 分煙機の新規用途展開による拡販

セグメント利益

(単位：億円)



都市部ではオフィスビルやマンション等を経営

全国各地の鉱山跡地や遊休地では飲食・物販店舗、工場・倉庫、駐車場等の賃貸事業を展開

長期ビジョン

社有不動産を有効活用
安定収益の確保を最優先として効率的に運営

長期目標

遊休社有地の新規開発
物件の組み換えによる収益性の向上



中計期間の具体的取り組み

- ・ 新規開発に関する調査促進
- ・ リニューアルによる顧客満足度の向上と収益性確保
- ・ 既存物件の収益性、将来性の再検討



地熱発電、太陽光発電、水力発電など地球環境に配慮した自然エネルギーを開発

長期ビジョン

再生可能エネルギーの調査・開発・事業運営
事業活動によるカーボンニュートラル・地球環境保全への貢献

長期目標

地熱発電向け蒸気供給量の最大化
新規地熱発電所の建設、運営
グループ全体に再生可能エネルギーを導入

中計期間の具体的取り組み

地熱 発電

- 大霧発電所の最大発電量を賄う蒸気供給量確保に向けた調査及び計画立案
- 新規地熱発電所建設のための調査促進

グループ 全体

- 自家発電・自家消費の再生エネルギー導入検討

太陽光 発電

- 安定操業
- 余剰電力の活用方法検討

水力 発電

- 鉱山の坑内水を利用した小水力発電の調査促進





当社の主力事業である鉱山業は、調査から開発、その後の操業期間も数十年以上という非常に長期間にわたる事業です。その間には資源価格の変動などによる利益の増減が発生しますが、ライフサイクルが長いという事業特性と、持続的成長を目的とした将来の投資へ備えるため、自己資本の充実と株主還元の最適なバランスを図りながら、長期安定的な配当を実施します。

2021年度～2023年度

連結配当性向 **30%** を目途に還元

参考：連結配当性向実績

2018年度	2019年度	2020年度見込
17.1%	16.6%	22.2%
110円/株	90円/株	100円/株





日鉄鉱業株式会社

将来情報についての注意事項

本資料に掲載されている計画・見通しに関する内容につきましては、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づき作成したものであり、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により本資料の計画等と大きく異なる可能性があります。